



浮孔小学校教諭  
岸本 輝陽斉 先生より

大和高田市と、その姉妹都市リズモー市との交換学生の引率をさせていただき、最も印象に残っていることは、生徒の皆さんの変化と成長です。初日は、不安で少し落ち着かない様子を見せていた生徒達ですが、日を追うごとに、ジェスチャーや相づちを打つなどして、自分なりに自分の気持ちや考えを現地の人々に伝えられるようになりました。現地の人とのやり取りの中で見られた自然な笑顔がその証拠だと思います。また、さよならパーティーで行った書道パフォーマンスでは、英語での自己紹介を交えながら見事な作品を仕上げ、現地で培われた自信も垣間見ることができたように思います。

日本からきた私達を快く迎え入れ、親切に寄り添い、現地で生活を支えてくれた、現地市役所のスタッフとホストファミリーの皆さんには、感謝の気持ちでい

っぱいです。現地での生活に不安を見せていた生徒の心の支えになったと思います。オーストラリアは、その歴史上、肌の色、人種、国籍が違う人々が集まった多民族国家で、多様な人々を受け入れてきた背景が、他者を受け入れる温かな対応として表れるのかもしれない。

私達は、日本にはない自然、先住民の文化、オーストラリアと日本の間にある歴史など多くのことを体験したり学んだりすることができました。この交換留学をより実のあるものにすることができたのは、生徒のみんなが、楽しく、そしてそれぞれが個性を発揮しながら協力をし、一つのチームとして活動したからだと思います。ここでの体験と学びが、これからの学生生活におけるかけがえのない経験になることを祈っています。

## バンブーイングリッシュ

クリスティーナ先生と一緒に、市内の5歳から12歳の子供たちが英語を身近に体験できる講座を毎月第2・4度土曜日に実施しています。



大和高田でバンブーイングリッシュを教えることは、私にとってとても有意義な経験となっています。ここでは、新しいことを学ぼうとする好奇心いっぱいの賢い子どもたちに出会うことができます。色の名前を覚えること、歌を歌うこと、「こんにちは」と挨拶すること——そんなシンプルなことでも、子どもたちは笑ったり、目を輝かせたりしてくれます。私は、子どもたちが少しずつ自信を持っていく姿を見るのが大好きです。最初は緊張して声が出せなかった子が、数回のレッスンを通して笑顔になり、手を挙げて、一生懸命発表するようにな



岡本 マリア クリスティーナ 先生  
大和高田市立 高田商業高校  
大和高田市内 中学校・小学校・幼稚園

ります。先生として、そうした小さな変化をととても誇りに思います。私にとって英語を教えることは、単なる単語の暗記ではありません。子どもたちの「話すことの自信」を育てたり、「学ぶことは楽しい」と感じてもらうことだと思っています。そして、英語を通じて言語だけでなく、いろいろな文化や考え方の多様性を伝えることも、大切な役割だと考えています。大和高田の皆さんは私にとってもよくしてくださっていて、こうして教えることを通して少しでも恩返しができているなら、本当に嬉しいです。

|                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <h1>The Bamboo Shoots</h1> <p>～地方季刊新聞～<br/>大和高田・リズモー都市友好協会 発行<br/>2025年 春・夏号</p> <p>No.186<br/>連絡先: 大和高田・リズモー都市友好協会<br/>TEL: 0745-22-1101<br/><a href="https://www.city.yamatotakada.nara.jp/lismore/">https://www.city.yamatotakada.nara.jp/lismore/</a></p> |
|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

このバンブーシューツ(筍)が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長するように。

今年度は学生4名、引率教諭1名の5名で7月29日から8月8日までリズモー市を訪問しました。



## リズモー市へ出発する前に抱負を聞いてみました



福井 絢香

派遣学生として、大和高田市の文化や魅力を伝え、リズモー市の生活や文化を学びたいです。



森井 啓翔

この留学を通してオーストラリアと日本の違いを学ぶとともに、英語の能力を高めて貴重な経験を楽しみたいです。



浮孔小学校 教諭  
岸本 輝陽斉

生徒の皆さんが、オーストラリアの文化に触れ、現地の方々と交流を深められるようにサポートをしたいと思います。



植田 芯ノ介

僕はこの交換留学を通して、自らの英語力を向上させ、オーストラリアの自然や文化をより知りたいと思い志望しました。



米田 歩美

地域同士が交流する交換留学だからこそ、様々な人と関わり、お互いの文化を共有する貴重な体験にしたいです。

次のページでは、リズモー市で過ごした様子や感想などについて、現地で滞在の模様を学生たちが作成しました。

## 生活の違い

オーストラリアと日本では、土地の大きさ、気候、地形が全く異なり、車から見える景色はとても広大で、どこを見ても牛や羊が放し飼いられていました。リズムーはとても自然が豊かなところで、オーストラリアにしかない動物や植物を見ることができました。

私たちが、北半球から南半球に行って、まず驚いたことは、太陽が「北」にあったことです。また、夜は南十字星や北斗七星がきれいに見えました。



## オーストラリアでの体験

- ・ボートでの体験は、森林が見えて生えている木はすごく高いものばかりで生命力を感じました。
- ・幼稚園では、様々な人種の子供たちがいて新鮮でした。自由な教育方針でした。
- ・先住民のモニュメントはその食文化を分かりやすく表したものでした。
- ・カンガルーの餌やりはとても貴重で、とても楽しかったです。触った感触はとても柔らかくて気持ちよかったです。餌を持っている手をカンガルーが両手で握ってくれたりなどしてとても可愛くて癒されました。
- ・お別れパーティーは寂しいと同時に楽しいものでした。ホストファミリーとの最後のディナーでは、オーストラリアのご馳走をいただきました。

## さよならパーティー



浴衣を着て書道パフォーマンスをし、当て字でリズムーと書きました。



北にある太陽の日差し



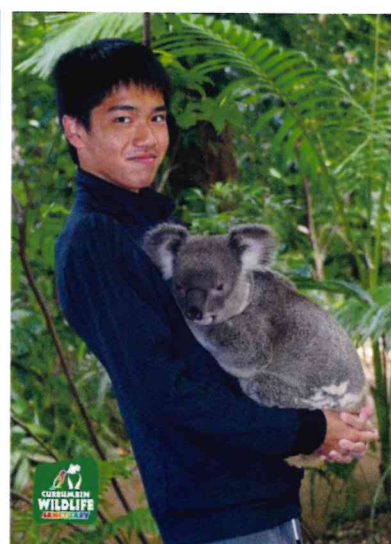
レモンマートル



ホスト宅に咲いていたオーストラリア固有種の花です。



ロッキー・クリーク・ダムでボートに乗りました。



## オーストラリアの食べ物

野菜がおいしかったです。一食は少なめで、食後のデザートがたくさん食べました。ホストファミリーの方と砂糖がたっぷり入ったレモンケーキを作りました。



ベジマイトは塩辛く、個人的には口に合いませんでした…



ブルーベリーファームおいしかったです。

森井:オーストラリアでしか味わえない体験を沢山できて、とても有意義な日々でした。人生において、少し不安でもやってみる楽しさと大切さを学びました。

米田:色々な国の人がいて、英語で様々な人と感情を共有し合えることが嬉しかったです。間違えても優しく教えてくれたりして、失敗を恐れないことを学びました。

植田:この留学で沢山の経験を通して、僕はどんなことに對してもチャレンジすることへの大切さや周りをしっかり見ることや、自分の足りなかった英語力・単語力を痛感し、帰国後の勉強や日々の生活を頑張っていこうと思いました。

福井:オーストラリアの高校生と話すことができて楽しかったです。まだその会話に追いついていけないことがあったので、もっと流暢な会話ができるようになりたいです。

岸本先生:高校生4人の変化と成長をその側で見守ることができて嬉しかったです。異なる文化、歴史、自然、そして言葉に触れることで、今までにはない自分に出会えたのではないのでしょうか。



カディナ高校ではクリケットをしました！



オーストラリア最後の夕食を楽しみました。



ブリスベンのアートギャラリーへ！壁一面にシールを貼りました。

最終日にブリスベン観光をし、みんなで市内を満喫しました。

I ♥ LISMORE

植田 芯ノ介・森井 啓翔  
福井 絢香・米田 歩美